

2026 年度シラバス

科目分類/Subject Categories			
学部等/Faculty	/工芸科学部/工芸科学部 : /School of Science and Technology/School of Science and Technology	今年度開講/Availability	/有/有 : /Available/Available
学域等/Field	/全学共通科目/全学共通科目 : /Program-wide Subjects/Program-wide Subjects	年次/Year	/1年次/1年次 : /1st Year/1st Year
課程等/Program	/基盤教養科目/人間教養科目(2023年度以前入学者) : /Liberal Arts/Liberal Arts(Course for students enrolled before 2023 academic year)	学期/Semester	/前学期/前学期 : /First term/First term
分類/Category	//基本教養 : //Foundations in Liberal Arts	曜日時限/Day & Period	/月5 : /Mon.5

科目情報/Course Information				
時間割番号 /Timetable Number	10111504			
科目番号 /Course Number	10160169			
単位数/Credits	2			
授業形態 /Course Type	講義 : Lecture			
クラス/Class				
授業科目名 /Course Title	アジアの歴史と文化 : Asian History and Culture			
担当教員名 / Instructor(s)	/(井上 直樹) : INOUE Naoki			
その他/Other	インターンシップ実施科目 Internship	国際科学技術コース提供科目 IGP	PBL 実施科目 Project Based Learning	DX 活用科目 ICT Usage in Learning
	実務経験のある教員による科目 Practical Teacher			
科目ナンバリング /Numbering Code				

授業の目的・概要 Objectives and Outline of the Course	
日	<p>「東アジア世界の史的動向と日本の歴史・文化」</p> <p>日本は古代から現在にいたるまで、朝鮮半島や中国大陸で興亡した諸王朝・国家と交流し、たえずそれら諸王朝・諸国家から直接的・間接的な影響を受けてきた。</p> <p>そのため、それら地域の史的動向を学ぶことは、日本の歴史・文化を巨視的な視点から理解するためにも必要不可欠となろう。</p> <p>そこで、本講義では、日本史上の重要な事件・出来事を、当該期の中国大陸・朝鮮半島の動向をふまえ、東アジア史の観点から論じ、東アジア史だけでなく、東アジア世界のなかの日本の史的展開過程を</p>
英	

学習の到達目標 Learning Objectives	
日	東アジア世界の動向とそのなかでの日本の歴史・文化的特質の基礎的知識を修得する。
英	

学習目標の達成度の評価基準 / Fulfillment of Course Goals (JABEE 関連科目のみ)	
日	
英	

授業計画項目 Course Plan			
No.		項目 Topics	内容 Content
1	日	第1回	ガイダンスー東アジアと日本
	英		
2	日	第2回	奴国と漢帝国ー前3～2世紀の東アジア
	英		
3	日	第3回	卑弥呼と魏ー3世紀の東アジア
	英		
4	日	第4回	石上神宮の七支刀と百済ー4世紀の東アジア
	英		
5	日	第5回	『広開土王碑』と倭ー5世紀初の朝鮮半島
	英		
6	日	第6回	倭の五王の世界ー5世紀後半の東アジア
	英		
7	日	第7回	聖徳太子の対外関係ー隋の中国統一
	英		
8	日	第8回	遣唐使派遣ー唐帝国の興亡
	英		
9	日	第9回	平安京の外国人使節ー渤海・新羅と日本
	英		
10	日	第10回	元寇来襲ーモンゴル帝国の世界
	英		
11	日	第11回	倭寇跳梁跋扈ー15・16世紀前半の朝鮮と日本
	英		
12	日	第12回	秀吉の朝鮮侵攻ー16世紀の東アジア
	英		
13	日	第13回	江戸時代の対外通交ー17世紀の日本と朝鮮
	英		
14	日	第14回	近代日本の対外政策ー19・20世紀の東アジア
	英		
15	日	第15回	戦後の日本と朝鮮ー朝鮮戦争と冷戦と在日 まとめ
	英		

履修条件 Prerequisite(s)	
日	
英	

授業時間外学習（予習・復習等） Required study time, Preparation and review	
日	講義をふまえて、関連分野の書籍に目を通し、その学習成果を期末レポートとして提出することが求められる。 本講義に対しては、67.5時間の予復習に充てる自己学習時間が必要である。
英	

教科書／参考書 Textbooks/Reference Books	
日	とくに指定しない。授業中にプリントを配布し、参照すべき文献などを適宜指示する。 参考書 岡本隆司『世界史序説――アジア史から一望する』ちくま新書、2018年 渡辺信一郎『中華の成立』岩波書店、2019年
英	

成績評価の方法及び基準 Grading Policy	

日	授業への取り組み (50%) + 期末レポート (50%) 特段の理由なく欠席すると、授業放棄とみなされ、成績評価の対象外となる場合があるので注意すること。
英	

留意事項等 Point to consider	
日	
英	